

北京師範大学との学術交流活動2010

京都大学大学院教育学研究科と北京師範大学教育学院は、2006年6月5日に学術交流協定を締結して以来、研究・教育の二つの方向で、実質のともなう交流活動を行ってきた。両大学は2006・2007・2008年に北京・京都で「合同国際シンポジウム」を開催したほか、毎年交互に教員が訪問し集中講義も実施してきた。2010年度は本研究科・高見茂教授が北京師範大学を訪問し、10月28～30日に集中講義を開催し、特に29日は学術講演会として公開された。その後30日には同行した南部准教授・吉田助教と5名の大学院生が、北京師範大学の教員・大学院生と協議を行ない、12月の京都での学術交流活動について合意に至った。



▶北京師範大学での高見教授（写真左）の講演

北京師範大学では2009年、従来の教育学院を中心として「教育学部」が設立され、長い伝統を有しながら中国の教員養成・教育学研究をリードする大学としていっそうの飛躍をめざしている。本年度はこの再編に伴い、12月14日に学術交流協定を更新・再調印と、更なる学術交流の発展に向けて、周作宇教育学部長・李家永先生・牛志奎先生が本研究科を訪問された。周学部長は「中国の教師教育モデル」と題して、現在の大学改革にみられる中国の新たな教師教育モデルについて、本研究科第一会議室において記念講演を行なった。講演では学校教員の専門職としての地位と任用資格の歴史的な変遷をふまえて、急速に拡大してきた学校制度のもとで、どのように質の高い教師教育を実現していくか、幅広い視点から分析がなされた（詳細は資料をご参照されたい）。講演に対しては本研究科・金子勉准教授よりコメントがなされ、ともに日中の教員養成に関わる研究者・研究科の立場から、大学を取り巻く政策的・財政的課題について深い議論が行なわれた。記念講演の後、本学教育学研究科・辻本雅史研究科長と、北京師範大学教育学部・周作宇学部長の間で、学術交流協定の調印式が行なわれるとともに、今後の具体的な共同での研究・教育活動について確認された。



▶交流協定調印式（京都大学）

12月15日には北京師範大学の博士課程大学院生と京都大学大学院教育学研究科大学院生が、京都大学楽友会館において、「日中教育学・大学院生交流会」を開催した。今回は二つの分科会にわかれて、北京師範大学から6名・京都大学から8名のあわせて14名が、それぞれの研究分野について発表を行なった。それぞれの発表は、英語でのプレゼンテーションに続いて双方からの質疑応答が行なわれ、日中の教育をめぐる共通の課題や相違点について意見が交わされた。参加した大学院生たちにとっては、お互いの学術研究の水準を高めあうとともに、相互の信頼と協働を進めていく貴重な機会となった。また10月の北京訪問以来、日中の院生たち自身が企画・運営を担当し、自主的な学術交流として実現したことも特筆すべき点である。



▶大学院生学術交流の様子（京都大学楽友会館）

2011年度は学術交流協定での合意事項を受けて、北京師範大学教員による京都大学での講義（国際教育研究フロンティア）の実施、および北京での学術交流活動が予定されている。これまで五年間の交流で、実質的な教育・研究活動の発展にむけた協力関係が蓄積されてきており、教員・大学院生を含めた学術水準の向上にむけたさらなる展開が期待される。

（文責・吉田 正純）